2011.3
vol.93

国際交流活動ニュース

MACROCOSM

CONTENTS

2 第9回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」（NPOマネジメントフォーラム）
5 タイ王国・スタディツアー 2011
8 国際理解教育支援プログラム
11 平成22年度内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会
12 第37回「東南アジア青年の船」事業報告会

マクロコズム

（財）青少年国際交流推進センター

平成22年度 第9回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」NPOマネジメントフォーラム2011

「NPOマネジメントフォーラム」は、高齢者・障害者・青少年の三つの分野の非営利セクターで活躍する日本と諸外国の青年が一堂に会して、各国のNPO事情や活動事例に基づく有益な情報を共有し、実践的な意見交換を通じてNPO運営に関する能力の向上を図り、それぞれの分野において社会活動を支え、その中心的な担い手となる青年リーダーを育成することを目的として実施しています。

今年度は、平成23年2月10日(木)～13日(日)、「NPOにおけるプロジェクト・マネジメント～組織や活動を継続し発展させるために～」をテーマに、日本、ドイツ、ニュージーランド、英国の高齢者・障害者・青少年分野の非営利セクターで活動する青年が集まりました。

非営利セクターにおいて、効果的な団体運営を行うためには、抱えている課題を適切に解決していく必要があります。しかしながら、多くの非営利団体において、こうした課題解決に積極的に取り組めていない現状があります。各団体が、さらに組織としての力を向上させるためには、課題を洗いだし、積極的に解決策を見出す取組が必要です。そのためには、課題に集中して取り組むプロジェクトチームを作り、目標を定めて向かっていくことが効果的です。この「プロジェクト」を実施していくに当たり、どのようにマネジメントを行うのが効果的なのかを学び合う場を設定したく、今回の総合テーマを「NPOにおけるプロジェクト・マネジメント」と定め、参加者がプロジェクト・マネジメントを的確に理解し、所属団体において応用し、取り組むことを可能にし、かつ具体的スキルを持ち帰ることを目指しました。

ディスカッションを行うに当たり、多くの団体が抱えているであろう課題の、新規事業への取組、団体の広報、財政基盤の改善の三つの切り口（トピック）を題材にして、各国でどのような取組が行われているかについて情報を共有しました。次に、各トピックのプロジェクトに取り組む際に、どのようなチーム組みを行うことが必要なのか、課題解決にどのような過程を経て取り組んでいくことが効果的なのか、そして評価し、次につなげていくにはどうしたらよいかについて話し合いました。

参加者は、課題別視察やディスカッションを通じて情報共有や意見交換をし、その成果を「NPOマネジメントフォーラム2011宣言文」としてまとめました。

ディスカッション・トピック

1. 社会のニーズにあった新規事業
2. 団体の理解者を増やす広報
3. 財政基盤の改善について

参加者全員と運営委員とともに

NPOマネジメントフォーラム2011宣言文

私たち非営利セクターは、人々が平和で豊かな人生を送ることができるより良い社会を目指して様々な活動に取り組んでいます。その活動は、大きな成果を生み出していると信じています。

しかしながら、現在の社会状況は、世界的な経済不況に加えて環境問題も含め様々な課題が噴出し、社会環境が大きく変化を遂げています。このように、多様化した現代社会に現れる新しい課題を解決していくために、非営利セクターが果たす役割への期待は、より一層大きくなっています。また、政府や地方行政のパートナーとして、施策を共に作り上げ実行していくことが今まで以上に期待されています。さらに、私たち非営利セクターには、企業などの民間組織との連携を含め、多くの関係機関との連携によって、地域社会及び様々な分野において今まで対応されていなかったニーズにも、きめ細かく応える力があると確信しています。

このように、今後の社会を大きく担っていく非営利セクターの基盤を強固なものにするために、各団体が問題解決能力を高めることは社会に貢献することにつながると考えます。その能力の一つとして重要なのが、課題を洗い出し積極的に解決策を見出す取組を行うためのプロジェクトを効果的にマネジメントしていく力です。そうしたその取組の成果を積み上げて団体の力をつけていかなければなりません。

本フォーラムでは、効果的なプロジェクト・マネジメントを身につけることをねらい、多くの団体が抱えている課題の「社会のニーズにあった新規事業」、「団体の理解者を増やす広報」、「財政基盤の改善について」の三つの題材を取り上げて討議しました。そして、各プロジェクトのマネジメントに取り組む際に大切にすべき視点と具体的取組を以下のように認識しました。

1. 社会のニーズにあった新規事業

NPOにおける新規事業の大切な視点は、まず、第一に社会的ニーズの正確な把握が挙げられます。事業における対象は誰なのか、どのようなサービスを提供するのかを明確にし、またそれが団体の理念に沿っているかという点においても確認する必要があります。

次に計画立案の際には、新規事業に求められる能力、経験、性格などを考慮したメンバーを揃え、それぞれの強みが遺憾なく発揮できる環境を作ります。そして現段階で考えうる到達目標や業務をできる限り具体的に設定します。その際には、事業メンバー、ボランティア、資金提供者や他のNPOパートナー、利用者を巻き込み、すべての意見に耳を傾け、共通認識の上で決定します。それは、新規事業は既存事業以上にニーズの発掘や把握に細心の注意を払い、それを充分に計画立案に反映させる必要があるためです。実際に事業を進めていく際にも、利害関係者と協働関係を作り、全員が当事者意識を持つことが事業の過程と結果をより強固なものにすると考えます。一方で、新規事業は利用できる情報や知識が限られているため、常に開かれた意見交換を行い、分析、検討、評価をしながら必要に応じて柔軟に変更や修正を加えて進めていくことも重要です。

事業の実施に関しては、成果や結果に責任を持つことが大切です。NPOにおいて、事業の成果は定量的なものに加え、定性的な面も含まれる場合が多々あります。いずれにせよ、事業の影響や成果を定量的、定性的に証明する術を持つことが重要です。なぜならば、その証明によって社会的な信用や信頼を得て、団体や事業が持続可能な運営をしていくことが、社会課題に取り組む者の責任でありNPOに求められることであると考えるからです。

2. 団体の理解者を増やす広報

広報プロジェクト・マネジメント・サイクルの各ステージにおいて、団体のビジョンや課題を絶えず振り返ることが成功の鍵です。それによって、間違ったメッセージが伝わってしまい、投入した労力を無にしてしまうリスクを最小限に抑えることができます。

チーム結成

広報プロジェクト・チームの結成においては、広報の専門家と、団体の理念を正確に理解しているメンバーとのバランスが取れた構成が重要です。このチームは団体の理念に沿って行動すること、また、チームに対する期待値や成果が明らかであることが重要です。チーム内に、経験豊かな広報の専門家がいることが理想的です。

目標設定

団体内外の環境の評価をするに当たり、SWOT*1やPEST*2分析を活用し、SMART*3な目標を設定すべきです。広報の対象者を分析することが鍵であり、これによって最適な目標が確定します。

計画設計

すべての手順を明らかにし、誰がいつどこで何をするか決めます。クリティカルパスを見出し、その上で計画に柔軟性を持たせます。団体の評判を汚さないため、起こりうるリスクを洗い出し、対応策を策定しておきます。計画は、チームメンバー全員が共有し、容易にアクセスできるようにします。

実施

常にビジョンを最優先に考える。団体外部の専門家などとの協働を行うことも多いため、計画が確実に期日通りに実施されるよう規律を保ち、プラス思考で実施すべきです。実施のあらゆる段階において、PDCA*4サイクルを回し、リーダーはメンバーに対する動機付けと、内外の関係者との十分なコミュニケーションをとります。不測の事態に備えた代替案が必要です。

評価

評価報告書を作成するときには、内部外部の主要な関係者からフィードバックを収集します。当事者あるいは対象者を念頭に置くべきです。受益者の関与を無くして、その受益者に影響を及ぼす事業はありえません。広報プロジェクトにおける成功とは、プロジェクトビジョンを達成するために、適切な方法で適切なメッセージが伝わることです。成功時は是非、それを祝い、結果を共有しましょう。報告書を作成し、次回のプロジェクトの参考とします。

3. 財政基盤の改善について

プロジェクトを実施する際に置かれている環境に対して共通認識を持つことは、どのようなプロジェクトでも必要です。解決すべき課題が明確になれば、プロジェクト・チームのメンバーだけでなく、出資する側も明確に目的を理解する事ができます。

プロジェクト・チームには財政に関するスキル、内因・外因の知識だけでなく、顧客に与えている影響を把握することができる優れたリーダーシップが必要です。

プロジェクトを実施し、評価した後には、プロジェクト実施の際に得た知識を以降のプロジェクト・マネジメントに反映しなければなりません。

文化が異なることで、財政についての考え方も異なります。参加者は、プロジェクト・マネジメントの理論と事例を用いて、お互いの実体験から違いを学び、どのプロジェクト・マネジメントにも共通して必要なものに関して議論をしました。異なる背景を学ぶことで、日本と他国の非営利セクターでは発展の度合いが違うことが分かりました。例えば寄附の方法として、遺産をNPOに寄附することが行われている国があるのに対し、日本ではそのようなやり方は多くありません。

また、ドイツ・ニュージーランド・英国で、重要視されているのは、寄附金が期待に沿って効果的に使用されているという信頼を与えることです。したがって、企業や個人からの寄附金に頼っている組織にとっては、寄附者からの信頼を得ることが必要不可欠です。

既存の手法のみならず、新たな寄附アプローチを模索することで、財源確保の道がさらに開かれるでしょう。第一に、寄附を集めるための戦略が重要です。その際、団体の活動している国での経済状況や文化を考慮することで、計画を実施する前に、そのプロジェクトの全体像を共通の認識として持つことができます。

今後、私たちは、今回のフォーラムで理解を深めた効果的なプロジェクト・マネジメントの考え方や手法を活用して、自分が所属する団体において具体的な課題解決に向けて取り組みます。

また、同じ立場で活動する仲間とのネットワークの構築に取り組み、互いに協力して団体としての能力を高めあう努力をします。そして、政府や地方行政、企業とより強く連携して、広く社会に貢献できる活動の展開を促進します。さらに、そのために必要なマネジメント力を身に付ける人材育成の場を政府や地方行政、企業との協力のもとに創り出すことを目指します。こうした目標実現のために、この事業の成果を活用し、このプログラムで得た人的ネットワークによる情報交換を促進し、効果的に協働していきます。

＊1 Strength(強み)、Weakness(弱み)、Opportunity(機会)、Threat(脅威)の頭文字をとったもの。
＊2 Politics(政治)、Economics(経済)、Society(社会)、Technology(技術)の頭文字をとったもの。
＊3 Specific(具体的な)、Measurable(測定できる)、Agreed upon(同意している)、Realistic(現実的な)、Timely(期日が定められている)の頭文字をとったもの。
＊4 Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の頭文字をとったもの。

第9回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」

日程

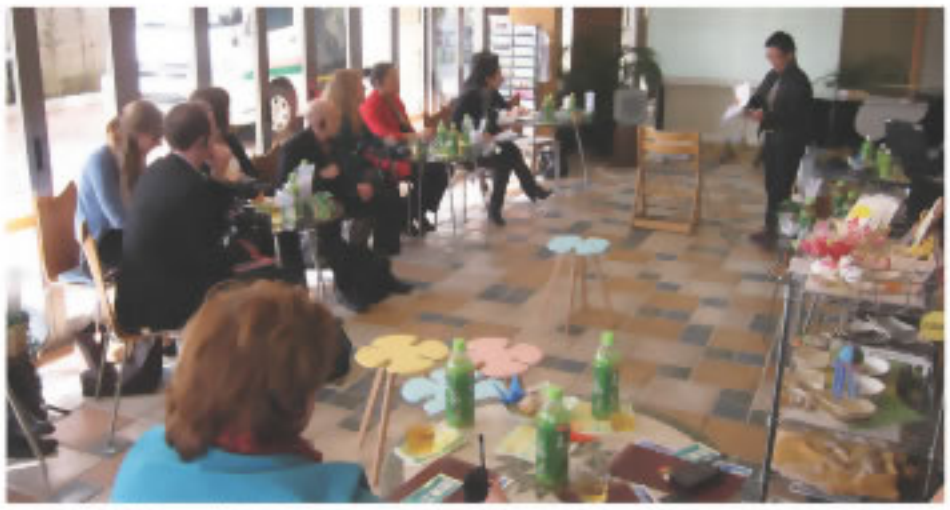
日付	午前	午後	夜間
2月10日（木）	外国参加者課題別視察		※全体オリエンテーション アイスブレーク
		日本参加者研修	
2月11日（金）	開会式、全体会（各国からの発表）、グループ・ディスカッション		文化交流会
2月12日（土）	グループ・ディスカッション		分野別交流夕食会 成果発表の準備　宣言文起草委員会
2月13日（日）	成果発表の準備 成果発表会	歓送昼食会、評価会、修了式 15:30 終了	

＜外国参加者課題別視察＞日本の非営利組織を理解してもらうためにディスカッション・トピック毎に視察を実施しました。

ディスカッション・トピック1　「社会のニーズにあった新規事業」

団体の目的を達成するために、社会のニーズにあった効果的な新規事業を立案、実施するプロジェクト運営について

視察先：社会福祉法人江東園（江東園ケアセンター つばき）/特定非営利活動法人ETIC.（エティック）



社会福祉法人江東園訪問

特定非営利活動法人ETIC.訪問

ディスカッション・トピック2　「団体の理解者を増やす広報」

団体の活動の充実をねらって団体への理解度、認知度を高めるために取り組む広報プロジェクト運営について

視察先：財団法人日本YMCA同盟/社会福祉法人東京コロニー

財団法人日本YMCA同盟訪問

社会福祉法人東京コロニー訪問

ディスカッション・トピック3　「財政基盤の改善について」

団体の目的達成のために、継続的な活動を行うための資金調達を行い、財政基盤の改善を図るプロジェクト運営について

視察先：特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会/財団法人修養団本部

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会訪問

財団法人修養団本部訪問

タイ王国・スタディツアー2011

（財）青少年国際交流推進センターでは、2011年3月21日～29日、自主事業として「タイ王国・スタディツアー2011」を実施しました。

全国から集まった15名は、タイ・ラヨーン県で行われた青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project (FHCP) 2011（希望あふれる子どもたちのためのプロジェクト）」にボランティアとして参加し、プロジェクト実行委員と協働しました。

FHCP2011に先立ち、タイの「希望あふれる子どもたち」の生活する児童養護施設を訪問し、それぞれの施設で子どもたちと共に生活・活動することを通じて、子どもたちとのコミュニケーションを深めました。活動を通じ、国際協力活動を実践するとともに、国際協調の精神を養いました。

<「希望あふれる子どもたち（Hopeful Children）」とは・・・>

「For Hopeful Children Project (FHCP)（希望あふれる子どもたちのためのプロジェクト）」は、第2回「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年ウィスィット・デッカムトーン氏が代表を務めるボランティアグループ「Fund for Friends」が主催する、希望あふれる子どもたちのための合宿型のプロジェクトで、1991年から毎年実施され、今年で21年目を迎えます。「東南アジア青年の船」事業タイ事後活動組織（ASSEAY Thailand）がこのプロジェクトを後援し、多数の「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年が協力しています。

このプロジェクトでは、社会的に恵まれない状況にある子どもたち、つまり、孤児・ストリートチルドレン・被虐待児など施設で保護・治療を受けている子どもたち、また、視覚・聴覚障がい、肢体不自由などの身体障がい、精神・知的障がいをもつ子どもたちなどを、「希望あふれる子どもたち（Hopeful Children）」と呼んでいます。希望あふれる子どもたちは物質・教育的な制限があるため競争社会でのチャンスが少ないとしても、このプロジェクトへの参加を通じ、自分たちを思う人の存在に気づき、自信をもって育ち、競争社会においてしっかりと成長するきっかけとなることをねらって、このプロジェクトが行われています。

【訪問施設】

(1) 子どもの村学園ムーバーンデック

カーンチャナブリー県にある児童養護施設「子どもの村学園ムーバーンデック」は、1979年に設立されたNPOで、両親のいない又は貧困・家庭崩壊などの事情で育児のできない家庭出身の子どもたちを預かっている施設です。3歳以上の子どもたちが共同生活をする場であり、タイ教育省から認可を受けた彼らの学校でもあります。子どもたちが既成の概念にとらわれることなく、自分たちに最も適切なやり方（オルタナティブ教育）を受けることができる小さなコミュニティーです。

(2) タンマヌラック

カーンチャナブリー県にあるタンマヌラックは、仏教の精神に基づき尼僧により2000年に設立され、さまざまな理由で両親のいない又は育児のできない家庭出身の子どもたちを預かっています。子どもたちの中には、タイ・ミャンマー国境地域で生まれた山岳少数民族の子どもたちが多く含まれます。また、子どもたち全体のうち約7割が女の子です。

(3) Foundation of Rehabilitation and Development of Children and Family (FORDEC)

バンコク郊外にあるFORDEC（フォルデック）は、「困難を抱えたすべての人々に対する愛と心配り」をモットーに活動しています。その対象には、子どもや若者、家族、高齢者、障がい者、ホームレス、放浪者、麻薬依存者、虐待被害者など、困難を抱えたすべての人が含まれます。今回のスタディツアーでは、バンコクの南東、サムットプラーカーン県のスラム街に位置する低所得層家庭の子どもたちのためのデイケアセンターを訪問しました。

月日	活動内容
3月21日（月）	バンコク集合
3月22日（火）	カーンチャナブリー県へ移動
	子どもの村学園ムーバーンデックでの活動
	子どもの村学園ムーバーンデックにて、子どもたちと交流 子どもの村学園ムーバーンデック滞在（2泊）
3月23日（水）	タンマヌラック・子どもの村学園ムーバーンデックでの活動
	タンマヌラックにて、子どもたちと交流・施設見学 子どもの村学園ムーバーンデックにて、子どもたちとの交流会・文化紹介
3月24日（木）	サムットプラーカーン県（バンコク郊外）へ移動
	FORDECでの活動
	FORDECデイケアセンターにて、子どもたちと交流・子どもたちの自宅（低所得層家庭）訪問
3月25日（金）	ラヨーン県へ移動 FHCP2011タイボランティアスタッフと顔合わせ FHCP2011事前準備
3月26日（土）	FHCP2011
	開会式、手洗いダンス、海水浴、ブース別ワークショップ活動（日本文化紹介）、参加各団体のパフォーマンス披露
3月27日（日）	FHCP2011
	軍用船乗船体験、海岸清掃活動、ブース別ワークショップ活動（日本文化紹介）、海水浴、参加各団体のパフォーマンス披露
3月28日（月）	FHCP2011
	閉会式
	バンコクへ移動 FHCPタイボランティアスタッフとの夕食会
3月29日（火）	バンコクにて解散

FORDECで船と翼の会ふくしまから贈られた帽子をかぶる子どもたちと

子どもの村学園ムーバーンデックで子どもたちとバティック（ろうけつ染め）体験

タンマヌラックで子どもたちとぬり絵をする

子どもの村学園ムーバーンデックの川辺で子どもたちと川遊び

For Hopeful Children Project (FHCP) 2011への参加

参加者感想文

タイでの「リアル」から考えたこと

矢田　結

「リアルを知る」が、スタディツアーでの私のテーマでした。大学で、数字や統計を用いて国際経済を学んでいるので、数字で世界情勢や貧困をとらえがちです。何人に一人が生後3日以内に死亡する等、途上国の「リアル」は私の中で数字としてインプットされていました。

3.11の悲惨な東日本大地震もあったせいか、私は短い間だけ子どもたちと触れ合うボランティアに意味があるのかと懐疑的になっていました。もっと即効力のある貧困削減や教育やインフラの援助をすべきなのではないのかと。

しかし、私の考えは間違っていました。人と人が触れ合って得られる満足感や安心感を与え、思い出の一部分としてでもよいので、子どもたちの精神的成長の手助けをする。そのためにここに来ているのだと、彼らの「リアル」を目の当たりにして気付かされたのです。

私は、FHCPでタイ北部の山岳民族の子どもたちを担当し、思いっきり毎日を楽しみました。彼らはタイ北部にいるため海を見る機会がなく、毎年このイベントで海を見るのを楽しみにしています。心から楽しんでいる姿を見ると、こちらも笑顔になります。

途上国の「リアル」を目の当たりにした私には、これを伝えていく義務、これから先、何らかの形で彼らの生活を全体的に向上できるような社会の仕組みを作っていく義務があるとも考えています。自分の置かれている環境を理解して、精一杯勉強する。それが、「リアルを知った」私が日本に帰ってきてこれからできることだと確信しています。

海水浴を楽しむ子どもたち

ブース別ワークショップ活動で子どもたちとの折り紙教室

<「ハッピー・トイレット・プロジェクト」と「世界手洗いダンス」>

1991年から始まったFHCPの20周年を記念して、「Fund for Friends」では、タイ王国海軍キャンプ（マハースラスィンハナートキャンプ：1994年からFHCPの会場として使用されています。）に、新しいトイレ・シャワー棟を建設するプロジェクト「ハッピー・トイレット・プロジェクト」を立ち上げました。今回、FHCP2011の開会式の際に、新しいトイレ・シャワー棟の落成が祝われました。1991年に100名規模から始まったFHCPが、20年の歴史を経て800名規模のプロジェクトとなり、参加する子どもたちに快適なトイレ・シャワーを提供することになりました。

また、「ハッピー・トイレット・プロジェクト」に併せて、FHCP2011の開会式の際に、日本からのスタディツアー参加者の呼びかけで、FHCP2011に参加する子どもたちやタイボランティアスタッフと共に、「世界手洗いダンス」を踊りました。「世界手洗いダンス」は、国際衛生年の2008年にユニセフにより毎年10月15日が「世界手洗いの日」と定められ、正しい手洗いを楽しく学べるように生まれたダンスです。更に、「世界手洗いの日」プロジェクトのボランタリーパートナーであるサラヤ株式会社からせっけんの提供をいただき、FHCP2011の各参加団体へ届けました。

「ハッピー・トイレット・プロジェクト」で完成した新しいトイレ・シャワー棟

子どもたちと「世界手洗いダンス」を踊る（FHCP2011開会式）

サラヤ株式会社から提供いただいたせっけんと子どもたち

大縄跳びに挑戦する

紙風船で遊ぶ

自分たちの文化を披露するタイ南部国境のイスラーム教の子どもたち

ステージで子どもたちとダンスを楽しむ

最後に子どもたちとの別れを惜しむ

FHCP2011を終了し実行委員の修了証を受け取るスタディツアー参加者

<子どもたちから東日本大震災へのメッセージ>

FHCP2011の開催時期が東日本大震災の直後であり、FHCP2011に参加する子どもたち・各団体から、日本の皆さんへたくさんのメッセージ・折鶴・義援金などをいただきました。毎年のタイ王国・スタディツアーを通して日本からの参加者との交流を深めてきた子どもたちが、自分の大切な日本のお兄さん·お姉さんたちのことを心から心配してメッセージを作成してくれる姿は、今回のスタディツアー参加者にとって非常に印象的でした。

FHCP2011に参加する子どもたちからの
メッセージや折鶴と共に日本へ向けてエールを送る

FORDECの子どもたちからの
メッセージと折鶴

子どもの村学園ムーバーンデックからバティック（ろうけつ染め）で描かれたメッセージ

"Children and staff in Moo Baan Dek want to say sorry, most impressive with Japanese that effected from tsunami. We hopefully everything is back to normal in the early days. I love you Japanese." 「子どもの村学園ムーバーンデックの子どもたちとスタッフ一同は、津波により被災された日本の皆さんのことを思っています。一日も早い復興を願っています。日本の皆さん、大好きです。」

(財)青少年国際交流推進センター 国際理解教育支援プログラム

国際理解教育支援プログラムは平成16年度より、(財)青少年国際交流推進センターの独自事業として開始され、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校等に派遣して、国際化時代にふさわしい青少年の育成に貢献してきました。これまでに25回以上の開催実績があり、参加者からは高い評価をいただいています。

国際理解教育支援プログラム過去3年の実績

年度	回数	日付	学校名	対象	内容	派遣された外国人講師等
平成22年度	第1回	平成23年2月25日(金)	青森県平川市立 碇ヶ関小学校	小学生・保護者含む200名	国際理解教育 (インターナショナルタイム)	Musab Mohamed Ahmed (アラブ首長国連邦) SWY22
	第2回	平成23年2月28日(月)	青森県立 青森南高等学校	高校生	国際理解教育講座	石井晴子 (北海学園大学教授、SWY22指導官) 鴨井智士 (青森南高等学校教諭、SWY22) Konstantinos Tsigkaras (ギリシャ) SWY18
	第3回	平成23年3月2日(水)	宮城県仙台市立 東六番丁小学校	2年生58名	国語「スーホの白い馬」 生活・国際理解「モンゴルについて知ろう」	エルデネダライ(レストランバリンカ勤務) オトゴンバートル(専門学校生)
平成21年度	第1回	平成21年7月6日(月)	東京都立大塚ろう学校 江東分教室	小学5・6年生	相手を知ろう 劇遊び	Anna Gruebler (ベネズエラ) SWY15 Chew Kim Soon (マレーシア) SSEAYP26
	第2回	平成21年12月4日(金)	宮城県仙台市立 東六番丁小学校	3年生62名	諸外国の生活や文化に親しむ	張　蕾 (中国) 東北大学留学生 イスラム・モハマド・アミヌル (バングラデシュ) 語学学校留学生 Chew Liling (ブルネイ・ダルサラーム)東北大学留学生 Krit Mnator (タイ) SSEAYP 32
	第3回	平成21年12月21日(月)	東京都立大塚ろう学校 江東分教室	小学5・6年生	各国のクリスマス	Damon Irvine (ニュージーランド) SWY11 Sophie Ayling (イギリス)
	第4回	平成22年3月8日(月)	東京都立大塚ろう学校 江東分教室	小学5・6年生	各国の遊び	Ashraf Samman (エジプト) SWY16
平成20年度	第1回	平成20年6月22日(日)	渋谷区知的障害者教室 「えびす青年教室」	知的障害者 41名	各国の食文化・言語講座	Alejandro Martines Monga (スペイン) SWY15 Chew Kim Soon (マレーシア) SSEAYP26 Hudson Kalaeda (ソロモン諸島) SWY11 Jaime Collado (フィリピン) SSEAYP26 Kitsutani Heman (ペルー) SWY12 Yong Barnas (インドネシア) SSEAYP16
	第2回	平成20年10月29日(水)	新宿区立市ヶ谷小学校	小学生	各国環境講座	王慧筠(Wang Hui Jun) Jakraphun Thanateeranon (タイ) SSEAYP17 Kosit Tiptiempong (タイ) SSEAYP20 Meta Sekar Puji Astuti (インドネシア) SSEAYP19 Oh Hee Kyoung (韓国) Royce Leong (オーストラリア) Susanne Walter (ドイツ) Yong Barnas (インドネシア) SSEAYP16
	第3回	平成20年11月9日(日)	宮城県仙台第一高等学校 (通信制過程)	高校生	国際理解ホームルーム	Ahmed Elsayed Moustafa Hegab (エジプト) SWY10 Bounheng Southichak (ラオス)SSEAYP27
	第4回	平成20年12月12日(金)	東京都立大塚ろう学校 杉並分教室	小学生	各国の正月の祝い方 インドネシア：工作、マレーシア：料理	Chew Kim Soon (マレーシア) SSEAYP26 Yong Barnas (インドネシア) SSEAYP16

* SWY:「世界青年の船」事業／ SSEAYP:「東南アジア青年の船」事業

◆実施をご希望の方へ

(財)青少年国際交流推進センターでは、小学校・中学校・高等学校、大学だけでなく、自治体等からの講師派遣、プログラムのコーディネート等の依頼にも応じています。当プログラムの実施を希望される際は、実施希望日、依頼内容等詳細を記載の上、以下の問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

国際理解教育支援プログラム担当：田中　佐代子・大久保　正美
e-mail: iuesp@iyeo.or.jp ／ tel: 03-3249-0767

財団法人 青少年国際交流推進センター

「国際理解教育支援プログラム」実施要綱より一部抜粋

1 目的

内閣府青年国際交流事業既参加者等の在日外国青年及び内閣府青年国際交流事業に参加し、事後活動として国際理解教育に熱意を有する者(以下「派遣青年」という。)を日本の学校やそれに類する施設に派遣して、国際理解を推進することを目的とする。

2 概要

(1) 国際理解を目的に実施される授業等に参加する派遣青年を紹介し、派遣する。
(2) 学校等での国際理解教育等のプログラム全体の企画や運営に協力する。

3 派遣青年の資格要件

ア　自国について紹介ができること
イ　国際理解教育に対して関心と理解があること
ウ　協調性に富み、事業の主旨に理解があること

◆平成22年度実施校からの報告

■第１回青森県平川市立碇ヶ関小学校

実施日	2011年2月25日（金）
担当者	木村房雄校長・木田真貴子教諭
対象	小学生・保護者含む200名
テーマ	国際理解教育支援プログラム アラブ首長国連邦について学ぶ
派遣された外国人講師等	Musab Mohamed Ahmed氏（SWY22）

■スケジュール

時間	内容
13：30～13：40	講師紹介
13：40～14：25	アラブ首長国連邦　ドバイや宗教等についての紹介
14：25～14：45	質疑応答
14：45～15：00	感想発表

■教員からの感想

子どもたちも保護者の方もとても興味深い様子で講演を聞いていました。アラブ首長国連邦という国について初めて知ることがたくさんあった様子で、メモを取りながら話を聞く子どもたちの姿が多く見られました。アラブ首長国連邦という国に興味を持ち、諸外国へ目を向ける良い機会となったのはもちろんのこと、アラブ首長国連邦と日本とのつながりにも気づくことができたようでとても良かったです。子どもたちからも保護者からもたくさんの質問が出され、もっとアラブ首長国連邦について知りたいという気持ちが伝わってきました。

■子どもたちの感想

- アラブ首長国連邦についてたくさんのことを知ることができてとても良かったです。
- もっといろんな国のことを知りたいと思いました。
- 初めて知ることばかりで国によって違うことがたくさんあるんだなとびっくりしました。

■保護者からの声

- 国際理解教育とはどんな教育なのだろうかと思っていたのですが、今回の講演でよくわかりました。これからも子どもたちにはもっといろんな国に興味を持ってほしいです。
- 子どもたちに様々な国へ目を向けさせるとても良い機会だと思いました。自分自身も世界へ向けての視野が広がった気がします。
- アラブ首長国連邦という国については、石油がたくさん発掘されるということぐらいしか知らず、たくさんのことを知ることができて良かったです。日本以外の様々な国のことを知り、世界に目を向けることがとても大切なことだと感じることができました。

(財)青少年国際交流推進センター 国際理解教育支援プログラム

■第2回青森県立青森南高等学校

実施日	2011年2月28日（月）
担当者	鴨井智士教諭（SWY22）
対象	高校生
テーマ	英語で異文化理解をはかる
派遣された外国人講師等	Konstantinos Tsigkaras氏 （SWY18、SWY22ナショナル・デリゲーション・リーダー） 北海学園大学 石井晴子教授 （SWY22指導官）

第18回、第22回「世界青年の船」事業（SWY18、SWY22）参加青年のギリシャのKonstantinos氏の来日に合わせ、青森県立青森南高等学校にて、国際交流イベントとして、「A visitor from Greece」を開催しました。また、北海道からは第22回「世界青年の船」事業CCU(異文化理解)コースの石井晴子指導官（北海学園大学教授）をお招きしました。

本校で「世界青年の船」事業に関連した国際交流イベントは、第22回「世界青年の船」事業国連コースの滝澤三郎指導官をお招きして以来の2回目でした。

Konstantinos氏には、「ギリシャの文化と国際交流」というテーマで講演していただきました。ギリシャの文化や歴史をビデオやスライドを多用したプレゼンテーションで、ギリシャの魅力が伝わってくる、非常に中身の濃いご講演で、地図や写真が移り変わる度、生徒から「世界史の授業で習った！」、といった反応がありました。

休憩の間も、Konstantinos氏や石井晴子教授に質問に来る熱心な生徒で列ができていました。

後半は私（注：鴨居智士教諭）自身が、将来、青森南高校からPY★を輩出したいという思いで、「青森県から内閣府主催国際交流事業に参加するための具体的方法」というテーマで講演いたしました。講演の間、メモを取る生徒も多く見られ、「将来、ぜひ事業に参加したい」という声も聞かれました。

最後に、石井晴子教授に、「異文化理解がなぜ大切か」というテーマでご講演いただきました。「緑茶に砂糖とミルクを入れる外国人に対してどう思うか」という身近な内容から、国際人として異文化を理解するための心構えなどをお話いただきました。

生徒からは、「異文化に対する考え方が変わり、とても勉強になった」といった、非常に前向きな意見が聞かれました。

教科書にあることをもっと身近に感じることができたり、世界の人々と理解しあうための心構えを教えていただいたりなど、将来国際人として活躍するための非常に有意義な時間となりました。

★PY（Participating Youth：内閣府青年国際交流事業参加青年）

平成22年度 内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会

平成23年2月6日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成22年度内閣府青年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会を実施し、今年度参加青年を含めて、約250名が一堂に会しました。

今年度の派遣国（カンボジア、ドミニカ共和国、ラオス、リトアニア、中国、韓国）での活動から得られた成果のほか、学んだこと、事業経験をいかした今後の取組や将来の夢が報告されました。一般来場者からは、「大変分かりやすく、具体的な活動内容を知ることができた」、「活気あふれるプログラム」、「団員と直接交流できた」等の意見が寄せられました。

今年度参加青年からは、「帰国後研修後、報告会の成功が目標となり、団内及び団を越えて学び合えた」、「あたかも自分が六つの国に派遣されたかのような気分になった」等のコメントがあり、参加青年にとって報告会は事業の集大成になっただけでなく、新たな学びや今後の展望を考える機会となりました。

◆主なプログラム

時間	内容
13:15-13:30	開会式
13:30-14:45	参加青年による青年国際交流事業報告
14:55-15:25	平成23年度内閣府青年国際交流事業説明及び募集
15:25-15:35	ブースアピール
15:35-16:45	各派遣団等ブース展示
16:45	閉会式

◆報告会実行委員長からのあいさつ

平成22年度報告会実行委員長 平原　紀子

早いもので、昨年2月に応募が始まってから既に一年という月日が経とうとしています。航空機による青年海外派遣事業には、多様なバックグラウンドから様々な目的意識を持つ者が集まっています。この報告会では、私たちが事業に参加して学んだことや体験から得た成果を、六つの派遣団の枠を越え一丸となってお伝えします。派遣団員にとっては、事業全体を振り返る機会であるとともに、今後の活動を発展させていくためのスタートラインでもあります。

国の代表という経験を通じて、団員の意識がどのように変化してきたのか。そして、活動の原動力となっている各人の思いは何なのか。皆様には、団員の見せる貪欲な学びの姿勢から、それぞれが派遣から持ち帰ってきたものを感じていただきたいと思います。

この報告会をきっかけに、一人でも多くの方に本事業へ関心を持っていただければ幸いです。

参加青年による青年国際交流事業報告

ブースアピール

来場者に経験を伝える参加青年

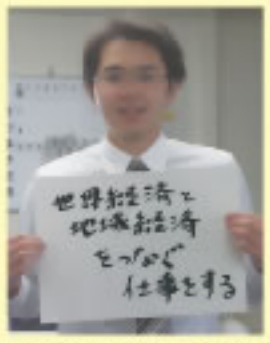
当日配布資料

◆この事業に参加して抱くようになった「夢」

「国連職員として世界中を走りまわる」（カンボジア派遣団 井筒穂奈美）

「日本人起業家として世界に誇る教育関係企業をつくる」（ドミニカ共和国派遣団 齋藤祐輔）

「東南アジアの教育インフラ整備、識字率向上を実現する」（ラオス派遣団 宮島昌弥）



「世界経済と地域経済をつなぐ仕事をする」（リトアニア派遣団 大内俊一）

「有田焼を通して夢と感動と文化を世界中の人々に伝えたい!!」（中国派遣団 石川敬子）

「国際交流のNPOを立ち上げて地域活性化を目指したい」（韓国派遣団 上杉佳代）

第37回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成23年2月20日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第37回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者と今年度参加青年（約40名）を合わせて約200名が来場しました。参加青年はプレゼンテーションと展示ブースにより、事業を通じて得た経験、発見、気づきを中心に、自分自身の変化を発表し、本事業の成果を報告しました。

プログラム

時間	内容
13:00	開会
13:15	第37回「東南アジア青年の船」事業概要説明 内閣府による平成23年度青年国際交流事業募集概要説明
14:00	ビデオ上映
14:30	参加青年による事業における各活動の報告
15:30	展示ブース、クイズ大会、参加青年によるパフォーマンス
16:20	閉会

第37回「東南アジア青年の船」事業報告会
実行委員長　岡本奈津美

私たちに強い絆と確かな経験をもたらしてくれた53日間。船の上では熱い想いを持った外国参加青年、日本参加青年と相互に学びあう中で、毎日が新しい発見と驚きで過ぎていきました。各国の代表として文化を伝えあい、友好を深めると同時に、一人ひとりが自身の向上のために駆け抜けた日々は、本当に濃密であったといえます。

報告会では、そのような貴重な体験を通し、私たちが何を学び、どのように成長したのかをより多くの方々と共有するため、それらをどのように伝えればよいか、試行錯誤を重ねてきました。何度も意見交換をし、練り直す中で、私たちは改めて参加青年同士の強い絆を確かめあうと同時に、自らの経験を確実に吸収することができたと感じています。

互いに高めあえる大切な仲間を得た今、私たちはここを新たなスタート地点として、それぞれの方面に向けた新たな一歩を歩み始めています。

来場者の方々はじめ、この報告会に協力をしていただいた全ての皆さまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

参加青年による体験と学びの報告

展示ブースアピール

応募希望者からの個別相談に応じる参加青年

展示ブースでの一般来場者への説明

日本青年国際交流機構（IYEO）の東日本大震災への取組

東日本大震災で亡くなられた方々と被災された皆様に対し、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

内閣府青年国際交流事業に参加した既参加青年で構成される日本青年国際交流機構（IYEO）は、震災直後から内閣府青年国際交流事業で得たネットワークを最大限にいかして、被災された方々への支援に取り組んでいます。今後も長期的な計画のもとに継続的な復興支援活動が実施されるとのことです。

以下のホームページで活動内容が報告されていますので、ぜひご覧ください。

東日本大震災復興支援活動　http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/index.htm

1. IYEO東日本大震災募金活動　http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/bokin.htm
   3月31日(木)時点総額3,174,752円　（団体1,716,781円、個人1,457,971円）
2. IYEOのホームページへの活動報告の掲載　http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/houkoku.htm
   - IYEO事務局における復興支援活動
   - 国内の被災地での復興支援活動（現地レポート）（以下の報告を参照）
   - 被災地の方々を支援するための全国で行われている会員を中心としたチャリティーイベント等
   - 海外での政府・事後活動組織、併せて既参加青年を中心とした個人の活動
3. 海外からの応援レター・メッセージの掲載
   世界中の関係団体や私たちの仲間である事後活動組織からの応援レターやメッセージを更新しています。
   http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/ouen.htm
4. IYEO会員を中心とした仲間のメッセージを掲載（メッセージ・ボード）
   http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/stylish/stylish.cgi

岩手県・福島県・宮城県の活動報告（一部抜粋）

岩手県青年国際交流機構（3月27日の活動）

岩手県IYEOでは、震災後、役員含む会員が定期的にミーティングを行い、復興支援活動を継続して行っています。

3月27日（日）には、釜石市の被災会員へ物資配達、大槌町の避難所のひとつ安渡（あんど）小学校で炊き出し（豆腐と野菜のみそ汁、ミニお好み焼き、麦茶）を行いました。

安渡地区は壊滅。あるべき建物が何一つなく瓦礫づくしで、住人でも距離感がわからず迷うほどです。車の通り道は自衛隊や業者の迅速な作業で確保されているものの、人気はなく異様な静けさでした。電気も回復していないため兵庫県警が交通整理をしていました。

安渡小学校では、約400名が体育館、各教室に分散して避難所生活をしています。食事は1日2回、自衛隊が全員分のごはん（おむすび）を配給しますが、品数は少なく、豆腐は震災後初めてだったとのこと。中学生2人、高校生1人が率先して配膳の手伝いをしてくれました。炊き出しの後には「おいしかったよ、盆と正月が一緒にきたようだ、頑張って生きるからね。」などの言葉をもらったり、炊事担当の女性たちからは「おかげさまで別の片付け仕事ができた、今夜は楽させてもらった。」と言っていただいたりし、こちらが元気をもらいました。次週は調理設備のない別の避難所での炊き出し要請に応えます。

「船と翼の会ふくしま」

1. NPO法人ザ・ピープル（いわき市）を通じての支援

かつて全国大会、ブロック大会を当会が開催する際にいつも講師としてご協力いただいてきた「住民主体のまちづくり」を進めることを大きな活動の目的としている団体です。聞き取ったニーズに応えて下着、生活用品、調味料、野菜等、ダンボール14箱をこの団体を通じて支援しました。また、IYEO本部及び全国のIYEO会員から、大量の物資を送っていただきました。

2. 福島県立明成高校避難所（福島市）　ラップ、アルコール消毒薬等を送りました。

3. 浪江町（東和町の避難所）への支援　体温計20本を送りました。

「船と翼の会ふくしま」では、今後も様々な支援活動を継続して行っていきます。

次ページに宮城青年国際交流機構の報告が続きます

宮城青年国際交流機構活動報告（3月31日現在）

1．浦戸諸島桂島支援

3月19日、26日、31日、「浦戸を共創する会」を通して、毎回米100kgと物資約20箱ずつを全国から寄せられたメッセージと共に届けました。島の若者からは、「全国から物資やメッセージを届けてもらった感動が、自分を現実に引き戻した」という言葉をいただきました。引き続き島の方々への支援を続けていきます。

2．「石巻市立病院」支援

宮城IYEO会員である及川敦子さんが看護師として勤務される病院の医療スタッフに、毎週、自転車や要望に応じた様々な物資と炊き出しを届けております。自転車はIYEOからの資金提供と、山形県IYEOの協力をいただきながら、計16台届けることができました。市立病院は津波被害に遭い壊滅のため、現在は市役所や避難所の救護所等で軽症患者の受入れを行っていますが、置かれている環境が過酷なだけでなく、様々な精神的ストレスも抱えています。食事もパン、おにぎりが多く、震災後、２週間以上経って初めて味わった豚汁に対し「とてもとても美味しくて涙が出てきました。皆感激していました！あっという間になくなってしまいました。被災後、初めて母の味に触れたと噛みしめて味わった職員もいました。」と及川さんよりメッセージをいただきました。炊き出しについては地元大学と連携しながら、物資支援は要望を聞きながら、全国のIYEOからの協力を得て続けていきます。

3．石巻市内避難所での活動

宮城IYEO会員である新野佳世さんは、実家が石巻で震災直後からボランティアとして実家近くの避難所数か所を回って女性を中心に要望を聴くだけでなく、同じ地域の被災者として話を聴き、心のケアも行っています。宮城IYEOでは、新野さんからの要望を受け、衣類、女性の下着やからだふきシート、食料など計50箱以上届け、新野さんを通して被災者に直接届けています。

第23回「世界青年の船」事業帰国報告会のお知らせ

自分が変わる、世界を変える。
One Ship, One Heart, One World

日　時：6月19日(日)13:00～16:30（12:30　開場）
場　所：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際交流棟国際会議室
東京都渋谷区代々木神園町3番1号　TEL: 03-3467-7201（代表）
問合先：(財)青少年国際交流推進センター
東京都中央区日本橋人形町2-35-14　東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767
http://www.centerye.org/　E-mail:swy23@iyeo.or.jp

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第27回全国大会 第18回青少年国際交流全国フォーラム 和歌山大会のお知らせ

日　時：平成23年11月26日(土)～27日(日)
場　所：和歌山マリーナシティ
ロイヤルパインズホテル
和歌山県和歌山市毛見1517

詳細は次号でお知らせします。

今月の表紙

タイの子どもの村学園ムーバーンデック
から贈られたバティック(ろうけつ染め)
で描かれたメッセージ

編集後記

東日本大震災の当日は、帰宅難民になり、6時間歩いて帰宅しました。渋谷駅近辺はまるで満員電車の車内のように大勢の人であふれていましたが、整然と人々が歩いている様子を見て、落ち着いて歩き続けることができました。この度、多くの方から受けたご親切を忘れることなく、少しでも他の方々のお役に立てるように、自分ができることをできるだけ長く続けていこうと決意しています。(ふ)

MACROCOSM 3月号 vol.93

2011年3月31日発行
編　集　マクロコズム編集委員会
発　行　(財)青少年国際交流推進センター
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767　FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: http://www.centerye.org/ (CENTERYE)
http://www.iyeo.or.jp/ (IYEO)
編集協力　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構（IYEO）
定　価　200円 本体191円
印刷所　株式会社デックス
TEL: 03-3400-8089　FAX: 03-5469-5270

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
新山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

このたびの東日本大震災により、多くの方々の尊い命が失われたことに深い哀悼の意をささげます。同時に被害を受けられました皆様、そのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げま す。皆様方には何卒お体 にご留意の上、一刻も早く復旧されることを心からお祈り申し上げます。

がんばろう、東北！ がんばろう、日本！

東急観光が社名を変えました。
トップツアー株式会社
観光庁長官登録旅行業第 38 号　日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階
http://www.toptour.co.jp
TOPTOUR
国際旅行事業部　ストリームライン新宿支店
03-5348-3500

マクロコズム　2011年3月号　通巻九三号季刊発行　定価二〇〇円　本体一九一円　編集協力：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）／日本青年国際交流機構

そのにっぽんでは、大人が楽しく生きている。

にっぽん丸撮影：三好和義

神戸／横浜のんびりカジュアルクルーズ　2日間

2011年 7月12日(火)～7月13日(水) 神戸発～横浜着

旅行代金（大人お一人様・消費税込み）

36,000円～180,000円

神戸の街に明かりが灯る夕刻、港を出発し一路、横浜へ。華麗なダンス、カジノゲーム、バーでの静かな語らいなど、大人のくつろぎの夜が待っています。昼間は真っ青な空と海に囲まれ、スパやプール、カフェなど多彩な空間とサービスを満喫。にっぽん丸自慢の美味も心ゆくまでお楽しみください。

名古屋発着 夏休み八丈島クルーズ　3日間

2011年 7月25日(月)～7月27日(水) 名古屋発～名古屋着

旅行代金（大人お一人様・消費税込み）

85,000円～400,000円

夏休みにご家族でお楽しみいただけるクルーズです。にっぽん丸は名古屋を出発し、東京の離島・八丈島へ。抜群の透明度を誇る海でのシュノーケリングを楽しめるオプショナルツアーを予定しています。新鮮な魚を「ヅケ」にして、甘めの酢飯に乗せる島寿司など、郷土料理も楽しみです。

夏休み 名古屋／横浜カジュアルクルーズ　2日間

2011年 7月27日(水)～7月28日(木) 名古屋発～横浜着

旅行代金（大人お一人様・消費税込み）

33,000円～176,000円

「クルーズに興味があるが、まずは体験したい」という方は気軽にご参加下さい。1泊2日という日程ではありますが、旬の食材をふんだんにとりいれた食事、ダンスタイムやカジノ、そしてきめ細やかなサービスなど、にっぽん丸クルーズの魅力の一端に触れていただけるはずです。

東北夏祭りクルーズ　6日間

2011年 8月2日(火)～8月7日(日) 横浜発～横浜着

旅行代金（大人お一人様・消費税込み）

210,000円～1,050,000円

みちのくの夏祭りを訪ねる人気のクルーズ。まず、秋田では「竿燈まつり」へご案内。続く青森では、華麗なねぶたと勇壮なハネトの競演「青森ねぶた祭」、または高さ20メートル以上のねぶたが見られる「五所川原立佞武多」いずれかへご案内します。船内も夏祭り一色。名物「にっぽん丸の夏祭り」も楽しめます。

済州島と海峡花火・阿波踊りクルーズ　8日間

2011年 8月9日(火)～8月16日(火) 横浜発～横浜着 Aコース

その他区間コースもございます。

旅行代金（大人お一人様）

298,000円～1,400,000円

横浜、神戸、下関からご乗船いただける、夏ならではの魅力いっぱいのクルーズです。韓国最南端、数多くの伝説と美しい自然に囲まれた済州島は、韓国で初めて世界自然遺産に登録されました。毎年恒例「にっぽん丸連」に参加するオプショナルツアーもあります。*踊る阿呆。になりたい方は、ふるってご参加ください。

横浜／小樽クルーズ　3日間

2011年 8月20日(土)～8月22日(月) 横浜発～小樽着

旅行代金（大人お一人様・消費税込み）

59,000円～399,000円

横浜を発ったにっぽん丸は、一足早く秋が近付く小樽へと向かいます。船内はカジュアルな雰囲気ながら、美食やもてなしなどにっぽん丸ならではの優雅な雰囲気はそのまま。コンパクトな日程、手頃な価格で本格的なクルーズが楽しめます。

※表示の代金はコンフォートステートグループ3（1室3名利用）～グランドスイート（1室2名利用）の大人お一人様（船内食事付／消費税込）旅行代金です。　※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問合せください。　※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船
〒107-8532　東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5F

お問い合わせ・お申込は商船三井客船クルーズデスク
0120 FREEDIAL 0120-791-211　http://www.nipponmaru.jp　ボンド保証会員